
父さんの会社が

脳好き人間

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

父さんの会社が

【Nコード】

N9124Y

【作者名】

脳好き人間

【あらすじ】

題名の通り、もはや言うことなどない。

最近、父さんの様子がおかしい。

元気がなくなっただし、早く家に帰ってくるようになった。しかも酔っ払って。

前までの父さんは毎日遅くまで働いていて、夜遅くに疲れ果てた姿で帰って来ていた。それでも、目には生きる気力みたいなものをしっかりと宿していた。

しかし、今の父さんの目には気力を感じられない。

心配だ。明日、ちょっと様子を見てみよう。

「いつてきまーす」

学校に行こうとしているように見せかけ、近所の公園へ行く。

この公園からは、我が家の玄関が見えるし、様子を見るのにちょうどいい。

おっと、早速父さんが出てきたぞ。

うわ、こっちに来る。どうして？父さんの会社はあっちなのに。

急いで土管の中に隠れる。この公園は、今時珍しい土管付きの公園なのだ。

昔はこの公園にも土管が置いてあったのに、最近は見なくなっ
たなあ。

キー、コー、キー、コー。

ブランコの音が聞こえてくる。見れば、いい歳したオッサンが、
ビール片手にブランコをこいでいた。

と、父さん。なんで？仕事に行かなくてもいいの？

「・・・に、・・・ないて・・・」

何やらぶつぶつ言っている。うーん、聞き取りにくいな。

「実は、・・・伝え・・・だ。父さん・・・が倒産・・・」

目を、いや耳を逸らしたくなるような言葉が、ピンポイントで聞
こえてきた。

落ち込む俺を知ってか知らずか、いや知らずに、しばらくそんな
ことを言い続ける倒さ、父さん。

どうやら、俺達にそのことを伝える練習をしているみたいだ。

この様子だと、今晚くらいには伝えるつもりだったのかな。

母さん、それに弟達、驚くだろうな。はあ、明日から、どうやって父さんに接せばいいんだ。気まずいよ。

この不景気だ。再就職先を見つけるのは大変だろう。我が家のみんな、これから先、生活していけるのかな。不安だ。

その日の夜、父さんは家族のみんなを呼ぶと、おもむろに口を開いた。

「お前達、実は伝えないといけないことがあるんだ」

その言葉に、家族の皆がゴクリ、と唾を飲む。

「実は……………」

頑張れ、父さん。俺は応援しているぞ。

「父さんの会社、倒産したんだ！」

「「「……………」」」

皆が黙り込む。父さん、アンタって人は……。

「あ、あははははは。流石は私が見込んだ男。最高だよ！」

笑い転げる母。

「あはははは、お父さん、ははは、おもしろーい」

腹を抱える弟達。

「ぷっ、ふははははは」

吹き出す俺。

さっきまでは不安に思っていたが、この家は、皆は、全然大丈夫だ。そんな気がする。

父さんの会社が倒産。そのくらいじゃ、我が家の絆は崩れない。

皆の様子を見て、照れ笑いを浮かべる父さんを見ながら、家族っていいな、と、改めて感じた。

あ。

いや、全く関係ないけど、昔、土管があつたのは公園ではなく空き地だった。

ど、どうしてあの公園には土管が置いてあるんだ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9124y/>

父さんの会社が

2011年11月27日11時56分発行